

牧之原市の

活力を取り戻す！

牧之原市長

西原茂樹

活力を取り戻す！住みたい牧之原市に！

牧之原市の経営の基本方針であり、最大の取り組みは、「市民参画と協働」です。

「協働のまちづくり」を推進するために、平成 23 年に自治基本条例を施行しました。まちづくりの主役である市民が「学び」「気づき」「共感し」「支援しあう」、地域の絆づくりが動き始めています。自治会などが中心となり「男女協働サロン」を主体として、根つきつつある「絆社会づくり」をさらに強固にしていきたいと思います。

南海トラフの地震津波への対応や、榛原総合病院等における医療体制の充実、人口減少と少子高齢化の中、子育て支援への対応、働く場や賑わいの確保、公共交通の確保、高齢者対策、消防やごみ処理といった広域行政の方向性等々、市民の皆様からの要望や課題は様々です。

これらの課題解決に向け、平成 27 年度から「第二次牧之原市総合計画」をスタートさせます。市民の皆様から伺った意見をもとに、本年 11 月から市民討議会を開催し、市民との合意形成を図りながら、総合計画を策定してまいります。

私は、今まで政策提言を出して選挙に臨んできました。市長就任後は、その政策提言を職員や市民とともに再度修正しながら、最も実現しやすい形で市の計画にしていまいりました。今回も、総合計画の策定過程の中で、検討してまいります。

この 8 年間で実施できた主な事業実績

榛原総合病院の存続と再建は、指定管理者制度のもとで実現できました。

市長給与 20%削減を 4 年間実施し総人件費を削減しました。

安全・安心に暮らし、働き続けるために「浜岡原子力発電所の永久停止」を市議会と共に訴えています。

子供たちの安全・安心のために、小中学校体育館・学校施設、幼稚園・保育園の耐震化を完了しました。

こども医療費の入院、通院医療費助成対象者を中学 3 年生まで拡大しました。

南海トラフの地震津波に備え、市民協働で「強靱な防災のまちづくり」に取り組んでいます。

この取り組みが全国から注目され、今年のマニフェスト大賞を受賞しました。

静岡市や島田市吉田町と静岡地域消防広域化を進め、「相良消防署」を配備しました。

県と共に、富士山静岡空港や御前崎港、さらに国道 150 号、国道 473 号の高架化など交通インフラを整備しました。

スズキ(株)相良工場に自動車組立て工場を誘致しました。

白井工業団地を完売し、市税投入なしに牧之原総合開発株式会社を清算、大きな財政不安要素の解消ができました。

都市計画税を廃止し税負担の軽減を行いました。

再生エネルギーにおいて先進地として注目されています。

実質公債費比率は、1 年前倒し平成 25 年度決算で基準を下回る予定で、財政健全化に向け前進しています。

「民間でできるものは民間で」多くの施設を指定管理者制度に移行し、行財政改革を進めました。

この他にも政策提言で約束した多くの事業を実施できました。また、未達成の事業については引き続き努力してまいります。

市民のみなさんに約束する 10 の政策提言

1 活力を取り戻す！

先ず地域に活力を取り戻すことが第一であります。

現在、牧之原市は、地震や津波、原発などの課題を抱えておりますが、これらの課題に対し、市民の皆様の生命財産を守るため安全安心への取り組みは当然であります。

しかしながら、それは、この地に働く場所や生活する場所があつてのことです。

現在の閉塞感を打破し、活力に満ちた牧之原市を創っていくことが、今一番必要なことあります。「活力を取り戻す」を念頭に、これからの4年間を全力で取り組みます。

陸・海・空の拠点を持つ牧之原市の優位性や社会状況を踏まえ、これらを最大限に生かし活力を取り戻すため私は、川勝知事や地元国会議員と連携して防災拠点の具現化を進めます。

同時にオリンピック決定や期待感が高まる新幹線新駅などと連携し、将来にわたって牧之原市の活力を維持するためにも、牧之原台地周辺の新たな都市空間の形成を目指します。

- ・富士山静岡空港周辺への防災拠点整備
- ・空港新幹線新駅の整備に向けた取り組み
- ・牧之原インターチェンジ周辺の土地活用
- ・高台への大学、企業、大型商業施設などの誘致

2 防災対策を最優先！

昨年一年かけて、市民の皆様と共に地区津波防災まちづくり計画を策定してまいりました。現在、この計画をもとに平成 27 年度までの整備計画の策定作業を進めております。市民の皆様と学び合意形成を図りながら、スピード感を持って、これらの整備に取り組んでまいります。また、昨今のゲリラ豪雨による内水面の氾濫防止対策もスピード感を持って対応してまいります。財源は、国や県の補助金の確保の努力し、今後も市長給与の削減を継続します。

- ・平成 25 年度から着手した「津波防災まちづくり計画」の達成
- ・県計画の防潮堤の嵩上げ事業着手と合意形成の促進
- ・地震対策の基本である家屋倒壊防止対策への支援強化
- ・ため池や橋梁の耐震性調査と補強や改修
- ・内水面の氾濫防止対策としての排水計画の策定と事業着手
- ・老朽化した水道管や配水池の更新
- ・国道 150 号線バイパスのルートや工法の再検討
- ・消防広域化による災害時の救助救出体制の強化

3 浜岡原発の永久停止と再生可能エネルギーの活用

終息の目処が立たない福島第一原発事故と、ふるさとを追われ不安の中で暮らす被災地を見れば、安全と安心のために浜岡原子力発電所は永久停止にすべきという方針は変わりません。

そのために再生可能エネルギーなど、次代を担う地域のエネルギー事業の検討を行います。地元のエネルギーは地元のために使い地域の活性化に役立てるため、太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギーの活用を積極的に支援します。

また、バイオマス発電やその他の再生可能エネルギーに挑戦する研究機関や事業を支援し、雇用と活力を作りだします。

- ・太陽光発電・風力発電・太陽熱利用などの導入促進支援
- ・生ごみやし尿汚泥処理におけるバイオマス発電の導入検討

- ・再生エネルギー施設のメンテナンスなどに伴う雇用の確保

4 子育て世代を支援強化！

これからの牧之原市を担う子供たちのために、医療費の支援や保育の充実など、従来からの施策のほか、子育て世代の皆さんが働きやすい環境を行政と企業と地域が一体となって子育てを支援し、牧之原市で産み育てたいと思っただけの魅力ある環境の整備に取り組んでいきます。

- ・小児医療の充実
- ・幼稚園・保育園のサービスの充実
- ・母親が子育てを楽しめる環境づくりの充実
- ・地域と子供たちの関わりを強める支援
- ・子供達の遊び場づくり
- ・放課後児童クラブの対象年齢拡大
- ・幼稚園・保育園の統合、民営化

5 お年寄りと障がい者に優しいまち

牧之原市の高齢化は、急速に進み、健康で生きがいを持った生活ができる地域を造ることが重要であります。

お年寄りに子守や庭の草取りなどの軽作業をしていただく代わりに買い物や通院などの移動手段の提供、緊急時に支援し合える地域づくりを目指します。

また、牧之原市にはたくさんの企業があります。そういった企業と協力して障がい者の皆さんに就労機会を提供できる”ワークタウンづくり”を進めます。

弱者高齢者対策を積極的に展開することにより地域力を高め、お年寄りと障がい者に優しいまちを目指します。

- ・シニアクラブへの支援
- ・障がい者にやさしい企業への支援
- ・地域で高齢者が生きがいを持って活動できる仕組みづくり

6 地域医療の強化と榛原総合病院の充実

地域医療の充実には、基幹病院としての榛原総合病院の充実は欠かせません。

今後も、引き続き医師確保など診療体制の充実に努めるとともに、現状を踏まえ、近隣市の総合病院との連携や機能分担、さらには、開業医との連携など各診療機関が補完し合いながら地域の医療を守り、市民を救うシステムについて検討し、提案してまいります。

- ・地域の医師、看護師の発掘や医療スタッフ育成の支援
- ・病院ボランティアの育成など地域で病院を支援する体制強化

7 交通アクセスの確保

人口流出の理由を、市民の意識調査などからみると、医療や福祉と並んで鉄道駅へのアクセスが不便ということが挙げられます。

幹線道路網は整備されてきましたが、逆に自家用車での移動が増え、通勤や通学、さらに、買い物や通院のために安全で安価な公共交通を担ってきた定期バスが地域から撤退しようとしています。

この重要な移動手段を確保するとともに、企業や地域と、新たな公共交通のネットワークの

構築を検討します。

最寄りのJR駅や市民や企業の要望が高い地点を回り、安価で、しかも従来の公的支援と同程度の財政負担で可能な方法などを検討します。

- ・ 自主運行バス路線の維持
- ・ 企業や地域と連携した新たな公共交通の検討

8 農商工連携による雇用とにぎわい創出

「作ったものを売る時代」から「売れるものを作る時代」へと移り変わっている現在、農業生産と消費販売を結びつけたマーケット戦略を推進します。

空港や海などの自然や産業資源を生かした観光振興を強化し、交流人口を増やし、市内に活力とにぎわいを創出します。

また、平成27年度には、牧之原市誕生10年目を迎えます。この節目の機会を捉え、全国へ牧之原市の魅力を発信するシティープロモーションの強化を図ります。

- ・ 市内中小企業支援強化
- ・ 市ならではのイベントの全国発信
- ・ お茶を始めとした農水産品・地場産業の商品開発支援や地産地消の推進

9 スポーツの推進と文化の継承

2020年、東京を開催地にオリンピックが56年ぶりに開催されます。子どもたちが金メダルを目指し、夢を抱くような事業の展開を図ってまいります。

牧之原市の市政経営の特徴は学びです。その核となる施設が図書館です。元気の源、さらには、地域活動の拠点として、集い、憩い、楽しめるなど地域の活性化の核となるような図書館整備の内容や手法について民間企業の協力連携を視野に入れながら、整備に向けた準備を行います。

牧之原市は長い歴史を有し、伝統文化が息づいている地域であります。先人たちが築いた郷土を誇りに思えるよう地域の歴史や文化を守り、学校や地域へ学ぶ機会を提供してまいります。

- ・ 芝グラウンドなどスポーツに親しむ環境の充実
- ・ 日本を代表するアスリートによるスポーツ教室や指導者育成
- ・ 図書館整備の内容や手法について具体的な計画の策定
- ・ 史跡、文化財めぐりなどを若者感覚での発信強化

10 教育力の向上

牧之原市独自の教育方針を示し、教育力の向上を目指します。

郷土を愛し、郷土に誇りと夢を持つ子供を育む教育を推進し、生まれ育った牧之原の歴史と現在を知る教育の充実を図ります。

安全安心な教育環境づくりを推進するため、施設の計画的な改修や今後の少子化を考慮に入れた学校設備計画についても検討を図ります。

また、市民の教育力向上のため生涯学習活動の推進に努め、市民の文化活動の自立を支援します。

- ・ 小中学校における7・8時限目の創設
- ・ 学習塾やスポーツクラブとの提携による特別授業の創設
- ・ 学校施設の環境整備(教室へのエアコン設置)